

# Financial Report

第78期事業報告書 2008.4.1～2009.3.31



PHOTO:レガシィ ツーリングワゴン 2.5i S Package

## 目次

- |                    |                    |
|--------------------|--------------------|
| 2 ……株主のみなさまへ       | 8 ……特集「新型レガシィ誕生」   |
| 3 ……営業の概況および業績の推移  | 12 ……活動レポート        |
| 4 ……部門別営業報告(連結)    | 13 ……配当に関する事項／株式事項 |
| 5 ……連結貸借対照表        | 14 ……役員            |
| 6 ……連結損益計算書        | 15 ……株式手続きのご案内     |
| 7 ……連結キャッシュ・フロー計算書 |                    |

# 株主のみなさまへ

株主のみなさまにおかれましては、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。

ここに第78期の事業報告書をお届けするにあたり、一言ごあいさつ申し上げます。

当連結会計年度における当社をとりまく経済環境は、年度後半において、サブプライムローン問題に端を発した金融危機の影響が実体経済へ急速に波及し、大変厳しい状況となりました。

このようななかで、当社の連結売上高は、自動車需要の低迷による売上台数の減少に加え、円高による為替レート差の影響などにより1兆4,458億円となり8期ぶりの減収となりました。

利益面につきましても、円高による為替レート差の影響や新型車投入に伴う費用の増加などにより営業損失が58億円となり、経常損失につきましても46億円となりました。また、繰延税金資産を取崩したことなどにより当期純損失が699億円となりました。なお、当期純損失となるのは15期ぶりです。

当社といたしましては株主の皆様の利益を重要な経営課題と位置付け、業績や配当性向などを総合的に考慮しながら、長期的に安定した配当の維持を基本としてまいりましたが、この経営環境の急変に伴う業績の悪化と引き続き厳しい経営環境が予想されることなどを総合的に勘案し、誠に遺憾ではありますが、当期期末配当金につきましては無配とさせていただくこととなりました。この場をお借りしましてお詫び申し上げます。

当社は今後の業績回復に向けて、中期経営計画に基づく次の取り組みを行なってまいります。本年5月に基幹車種である「レガシィ」を全面改良し、国内市場で発売いたしました。この新型「レガシィ」を今後、全世界へ順次展開し、業績回復に向けた販売の牽引役としてまいります。また、電気自動車元年とも言われる今年、電気自動車「プラグインステラ」の発売（主に法人、官公庁向け）を夏に予定してお

り、首都圏を中心に170台程度の供給を計画しております。今後、当社は電気自動車の普及・啓発を進め、車の環境負荷低減に取り組んでまいります。さらに「トヨタグループとのアライアンス」に関しましては、環境の急激な変化に対応しながら着々と進捗しており、相互にWin-Winの関係を維持しながら、最大限の努力をはらい、この逆境を乗り越えてまいります。

また、スバル車の新たな商品展開に適した国内販売体制構築のため、当社出資の国内販売会社の統括会社体制への移行を進めてまいりましたが、新体制への完全移行を当初の平成21年秋から平成21年4月に前倒して実施いたしました。これにより、国内のスバル販売会社は46社体制（平成20年4月1日時点）から実質22社体制となり、地域密着型の営業活動を実現すると同時に合理的な経営体制を早期に確立することができました。

以上のような取り組みを通じ、今後も中期経営計画で策定した「スバルらしさの追求」、「グローバル視点の販売」、「品質・コスト競争力の強化」などのテーマは堅持しつつ、より一層のスピードをもって計画を推し進めてまいります。

株主のみなさまにおかれましては、今後とも引き続きご支援ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成21年6月



代表取締役社長

森 郁夫

# 営業の概況および業績の推移

## [営業の概況(連結)]

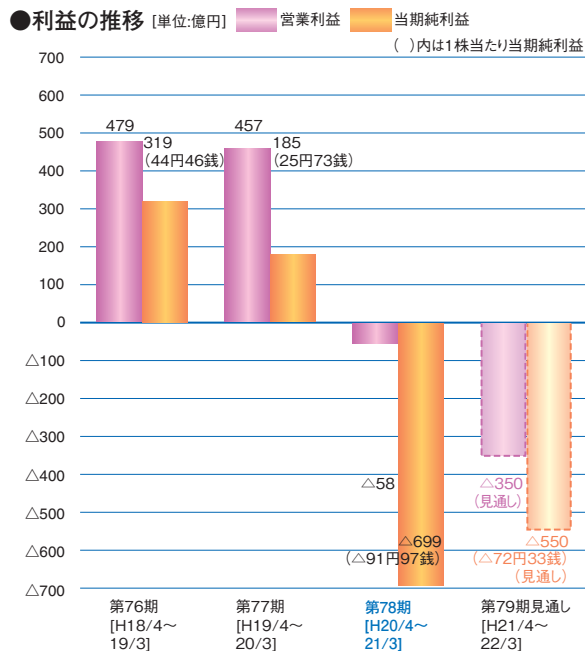
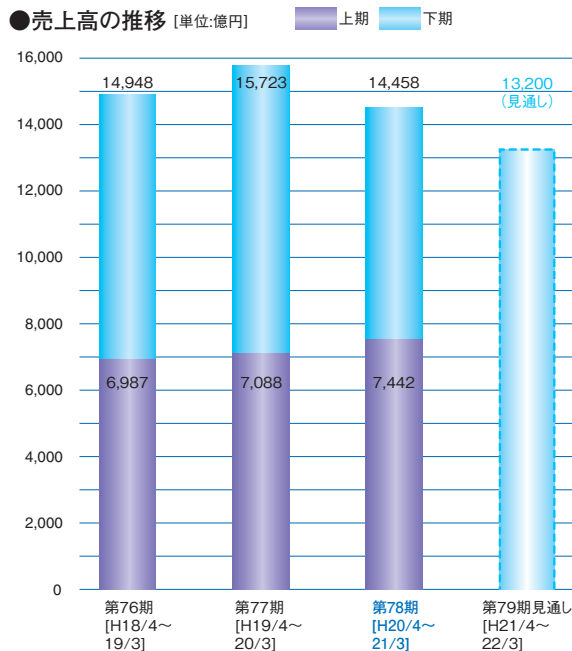
当連結会計年度は、年度後半において厳しい経済環境の影響を受けたことなどにより、連結決算は次のとおりとなりました。

売上高は、自動車需要の低迷による売上台数の減少に加え、円高による為替レート差の影響などにより、1兆4,458億円と前期に比べ1,266億円(8.0%)の減収となりました。

利益面につきましては、円高による為替レート差の影響や新型車投入に伴う費用の増加などにより、営業損失が58億

円と前期に比べ515億円の減益となり、経常損失につきましても、46億円と前期に比べ500億円の減益となりました。また、当期純損失につきましても、繰延税金資産の取崩し394億円を実施したことに加え、当社の取引先であるエクリプス社に対する債権等の回収不能分で89億円、WRC(世界ラリー選手権)撤退費用30億円などを特別損失に計上したことにより、699億円と前期に比べ884億円の減益となりました。

## [連結の業績及び推移]



# 部門別営業報告(連結)

## 〔自動車事業部門〕

### 全体需要の低迷や円高の影響等により、減収減益

国内の登録車につきましては、平成20年6月に「エクシーガ」、平成20年11月に「デックス」と新型車を発売いたしました。また、「レガシ」、「インプレッサ」が全体需要の落ち込みの影響を受け、売上台数では70千台と前期に比べ8千台(10.2%)の減少となりました。

一方、軽自動車につきましては、全体需要の減速や現行車種のモデル長期化の影響などにより、売上台数は109千台と前期に比べ22千台(16.8%)の減少となりました。

これらの結果、国内における売上台数の合計は179千台と前期に比べ30千台(14.3%)の減少となりました。

海外につきましては、上半期は新型「フォレスター」、欧州に投入された「レガシディーゼル」が販売に貢献したことなどにより、海外全体の売上台数が前年同期を上回りました。

一方、下半期は世界的な金融危機に端を発した景気の悪化による全体需要の低迷や急激な円高の影響などにより前年同期を下回りました。これらの結果、当連結会計年度の海外全体の売上台数は377千台と前期に比べ11千台(2.9%)の減少となりました。

地域別には、中国で26千台と前期に比べ14千台(107.5%)の増加となり、好調を維持しましたが、北米で207千台と3千台(1.5%)の減少、ロシアを含む欧州で77千台と9千台(9.9%)の減少、豪州で37千台と3千台(8.7%)の減少、その他地域で29千台と10千台(25.1%)の減少となりました。

以上の結果、国内と海外を合わせた売上台数は555千台と前期に比べ41千台(6.9%)の減少となり、自動車事業部門全体の売上高は1兆3,163億円と前期に比べ1,049億円(7.4%)の減収となりました。営業損失につきましても、円高による為替レート差の影響などもあり、92億円と前期に比べ463億円の減益となりました。

## 〔産業機器事業部門〕

### 北米市場の低迷が響き減収

国内につきましては、発電機完成品の販売は増加したものの、土木建設用エンジンなどが減少したことにより、売上高は前期を下回りました。

海外につきましては、世界同時不況前の受注が好調であったことにより、欧州向けエンジンは過去最高の販売台数を記録したものの、北米市場の景気低迷による影響が大きく、国内同様売上高は前期を下回りました。

以上の結果、全体の売上高は349億円と前期に比べ58億円(14.2%)の減収となり、営業損失につきましても16億円と前期に比べ23億円の減益となりました。

## 〔航空宇宙事業部門〕

### 防衛省向け、民間向けともに減収

防衛省向け製品では、無人機研究システムの納入進展などによる売上増があるものの、次期固定翼哨戒機・輸送機「XP-1/CX」および戦闘ヘリコプター「AH-64D」の売上減などにより、売上高は前期を下回りました。

一方、民間向け製品では、量産売上開始による「ボーイング787」の中央翼の納入増、中型ビジネスジェット機「H4000」の主翼の納入増などがあるものの、ボーイング社のストライキによる既存機種の新減産や「エクリプス500」の生産中止、秋以降の急激な円高による為替レート差の影響などもあり、売上高は前期を下回りました。

以上の結果、全体の売上高は809億円と前期に比べ188億円(18.9%)の減収となり、営業利益につきましても16億円と前期に比べ29億円(64.5%)の減益となりました。

## 〔その他事業部門〕

### 大型風力発電システムが売上増に寄与

大型風力発電システムの納入が売上増に寄与したことに加え、新たに子会社2社を完全連結したことなどにより、売上高は137億円と前期に比べ29億円(26.7%)の増収となりました。営業利益につきましても、31億円と前期に比べ6億円(23.5%)の増益となりました。

# 連結貸借対照表

単位:百万円

科目	第78期	第77期
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>		
現金及び預金	78,151	67,053
受取手形及び売掛金	82,352	96,017
リース投資資産	27,074	—
有価証券	11,439	32,775
たな卸資産	—	261,009
商品及び製品	128,645	—
仕掛品	96,425	—
原材料及び貯蔵品	34,249	—
繰延税金資産	15,918	26,486
短期貸付金	59,434	78,329
その他	53,845	62,504
貸倒引当金	△ 1,509	△ 1,346
<b>流動資産合計</b>	<b>586,023</b>	<b>622,827</b>
<b>固定資産</b>		
<b>有形固定資産</b>		
建物及び構築物(純額)	123,403	124,342
機械装置及び運搬具(純額)	108,077	113,876
土地	183,741	181,974
リース資産(純額)	20,765	47,906
建設仮勘定	12,287	10,161
その他(純額)	19,786	33,449
<b>有形固定資産合計</b>	<b>468,059</b>	<b>511,708</b>
<b>無形固定資産</b>		
のれん	—	18,500
その他	13,972	12,972
<b>無形固定資産合計</b>	<b>13,972</b>	<b>31,472</b>
<b>投資その他の資産</b>		
投資有価証券	51,838	70,107
長期貸付金	3,334	3,736
繰延税金資産	10,702	27,256
その他	37,428	32,369
貸倒引当金	△5,925	△3,087
<b>投資その他の資産合計</b>	<b>97,377</b>	<b>130,381</b>
<b>固定資産合計</b>	<b>579,408</b>	<b>673,561</b>
<b>資産合計</b>	<b>1,165,431</b>	<b>1,296,388</b>

科目	第78期	第77期
	平成21年3月31日現在	平成20年3月31日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>		
支払手形及び買掛金	148,015	229,780
短期借入金	225,149	165,886
コマーシャル・ペーパー	24,000	6,000
一年内返済予定の長期借入金	21,956	—
一年内償還予定の社債	—	30,000
未払法人税等	2,062	8,091
未払費用	50,524	61,954
賞与引当金	14,141	15,507
製品保証引当金	17,934	22,563
工事損失引当金	760	—
その他	56,707	58,261
<b>流動負債合計</b>	<b>561,248</b>	<b>598,042</b>
<b>固定負債</b>		
社債	60,000	60,000
長期借入金	50,583	42,661
繰延税金負債	7,448	—
退職給付引当金	36,997	40,993
役員退職慰労引当金	702	774
債務保証損失引当金	745	745
その他	52,989	58,750
<b>固定負債合計</b>	<b>209,464</b>	<b>203,923</b>
<b>負債合計</b>	<b>770,712</b>	<b>801,965</b>
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>		
資本金	153,795	153,795
資本剰余金	160,071	160,098
利益剰余金	126,593	227,789
自己株式	△2,086	△40,538
<b>株主資本合計</b>	<b>438,373</b>	<b>501,144</b>
<b>評価・換算差額等</b>		
その他有価証券評価差額金	3,002	13,716
為替換算調整勘定	△47,429	△21,463
<b>評価・換算差額等合計</b>	<b>△44,427</b>	<b>△7,747</b>
少数株主持分	773	1,026
<b>純資産合計</b>	<b>394,719</b>	<b>494,423</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>1,165,431</b>	<b>1,296,388</b>

[注]百万円未満四捨五入

# 連結損益計算書

単位:百万円

科目	第78期	第77期
	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
売上高	1,445,790	1,572,346
売上原価	1,164,564	1,217,662
売上総利益	281,226	354,684
販売費及び一般管理費	287,029	309,004
営業利益又は営業損失(△)	△5,803	45,680
営業外収益		
受取利息及び配当金	—	5,503
受取利息	2,663	—
受取配当金	1,080	—
持分法による投資利益	926	501
不動産賃貸料	586	—
為替差益	7,769	—
デリバティブ評価益	—	4,921
その他	1,779	4,104
営業外収益合計	14,803	15,029
営業外費用		
支払利息	3,315	4,063
為替差損	—	4,740
デリバティブ評価損	5,296	110
その他	4,989	6,359
営業外費用合計	13,600	15,272
経常利益又は経常損失(△)	△4,600	45,437
特別利益		
固定資産売却益	357	1,480
投資有価証券売却益	673	1,502
前期損益修正益	—	1,539
退職給付制度改定益	845	—
貸付債権譲渡益	837	548
その他	1,156	83
特別利益合計	3,868	5,152
特別損失		
固定資産除売却損	3,809	5,489
減損損失	1,045	13,174
投資有価証券売却損	468	—
投資有価証券評価損	1,072	—
貸倒引当金繰入額	2,640	—
工事損失引当金繰入額	2,901	—
その他	8,850	20
特別損失合計	20,785	18,683
税金等調整前当期純利益又は 税金等調整前当期純損失(△)	△21,517	31,906
法人税、住民税及び事業税	6,637	14,536
法人税等調整額	41,961	△1,148
法人税等	48,598	13,388
少数株主利益又は少数株主損失(△)	△182	37
当期純利益又は当期純損失(△)	△69,933	18,481

[注]百万円未満四捨五入

# 連結キャッシュ・フロー計算書

## ●キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、965億円となりました。

当連結会計年度における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因、および前年同期に対する増減状況は次のとおりであります。

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動による資金の減少は269億円となりました。主な要因は、減価償却費を740億円計上したものの、仕入債務の減少732億円に加え、税金等調整前当期純損失215億円を計上したことなどであります。

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動による資金の減少は724億円となりました。主な要因は、有形固定資産の取得による支出(売却による収入との純額)576億円および投資有価証券の取得による支出(売却による収入との純額)86億円などであります。

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動による資金の増加は804億円となりました。主な理由は、短期借入金純増額515億円および自己株式の売却による収入(取得による支出との純額)311億円などあります。

## ●連結キャッシュ・フロー計算書の要旨

単位:百万円

科目	第78期	第77期
	自平成20年4月1日 至平成21年3月31日	自平成19年4月1日 至平成20年3月31日
営業活動によるキャッシュ・フロー	△26,892	107,387
投資活動によるキャッシュ・フロー	△72,385	△44,920
財務活動によるキャッシュ・フロー	80,449	△45,110
現金及び現金同等物に係る換算差額	△15,614	△1,968
現金及び現金同等物の増加額(△減少額)	△34,442	15,389
現金及び現金同等物期首残高	114,649	99,060
連結範囲の変更に伴う増加額	2,045	200
現金及び現金同等物期末残高	96,515	114,649

[注]百万円未満四捨五入

# 20年目のイノベーションはじまる。

# レガシィ フルモデルチェンジ。

1989年の誕生から今年で20周年を迎えるレガシィ。

この記念すべき年の5月20日、フルモデルチェンジした

新しいレガシィが発表・発売となりました。

クルマがお客様にご提供できる感動や喜びとは何かという事を、

改めてゼロから考え直し、今の時代にふさわしい革新を遂げました。

ここでは、その新しいレガシィのポイントをご紹介します。



## LEGACY LINE UP

レガシィを構成する「ツーリングワゴン」「B4」「アウトバック」。

**ツーリングワゴン** 人生と豊かに響き合う、新時代のグランドツーリング。



グランドツーリングを象徴するツーリングワゴン。快適な居住空間を確保し、そこから最適なボディデザインを設定する、従来とは逆の開発手法を採用。スタイリッシュさと使い勝手のよさを併せ持つワゴンスタイルをさらに進化させ、人生をより豊かにするクルマとして、「本物」を求めるお客様の心を捉えます。

**B4** その全身にパフォーマンスを



AWDスポーツを体現するセダン、B4。エッジを効かせるデザインで、B4の優れた走りの性能を表現。独自の技術を持つ、日本が誇るスポーツセダン。海外だけでなく欧州車支持層のお客様にも気に入って



# LEGACY



個性豊かな3車型の、それぞれの特徴・コンセプトをご紹介します。

を感じる、日本発のAWDスポーツ。



クステリアも、スピード感や勢いを感じさせ表現しています。シンメトリカルAWDというダンとして、ありきたりな国産車では物足りないだけのクルマに仕上がっています。

**アウトバック** 感性を刺激する存在感を放つ、クロスオーバーSUV。



走る道を選ばない高い走破力と、上質なスタイルを兼ね備えた「クロスオーバー」という新たなクルマのジャンルを開拓したアウトバック。フルモデルチェンジにあたり、都市型SUVとして、内外装共に高級感や洗練さをさらにアップ。他銘にお乗りのお客様にも魅力を感じていただける、存在感ある個性を手に入れました。

Driver's  
Fun

グランドツーリング  
イノベーション

Passenger's  
Fun

ECO  
Performance

## 新しい豊かさをご提案する レガシイの革新。

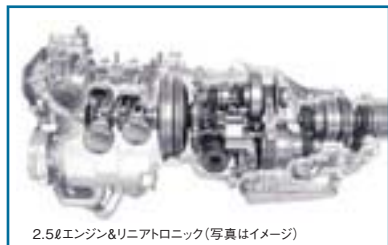
新しいレガシイの開発コンセプトは「グランドツーリングイノベーション」。  
レガシイの原点である「いつでも、どこでも、誰でも、安心、快適にドライブを楽しむことができるグランドツーリング性能」をイノベーション(革新)し、乗る人の人生を豊かにしていく新しいクルマの価値をお客様にお届けします。

### Driver's Fun ドライバーズ・ファン



#### ■さらなる革新の走りへ。

シャシー、ボディを大幅に進化させ、乗り心地・静粛性・安全性・ハンドリングなど、クルマの総合性能をさらにアップ。お客様の期待に応える、新時代のグランドツーリングをお届けします。



2.5ℓエンジン&リニアトローニック(写真はイメージ)

#### ■新エンジンの力強い走り。

BOXERエンジンは、2.5ℓに排気量を拡大。新開発のCVT「リニアトローニック」を組み合わせる事で、力強く滑らかな加速が楽しめます。



シメトリカルAWD

#### ■信頼のシメトリカルAWD

どんな路面でも、すぐれた安定性を発揮するシメトリカルAWD。また全車に標準装備されるVDCが、さらなる安心感をプラスします。

### Passenger's Fun



#### ■使いやすい荷室スペース。

ツーリングワゴン、アウトバックは、簡単に自在なシートアレンジが可能。B4も広いトランクスペースを確保しています。

## Topic

### レガシィの国内新広告 キャンペーンに ロバート・デ・ニーロを起用

新しいレガシィの国内の広告キャンペーンには、映画俳優ロバート・デ・ニーロを起用しました。映画「ゴッド・ファーザーパートII」「レイジング・ブル」で2度のアカデミー賞を受賞したハリウッドを代表する俳優ロバート・デ・ニーロは、日本企業のCM出演は今回が初。新しいレガシィへの話題性を高めます。



## パッセンジャーズ・ファン

### ■全ての席が快適な室内空間。

パッケージを全面的に見直すことで、頭上や膝周り、足元のスペースなど、ゆとりの室内空間を確保。ソフトな乗り心地の新型シートで、どの席に座っても快適なロングドライブを楽しむことができます。



### ■かつてない快適な乗り心地。

大幅に改良されたシャシーが、路面からの振動や騒音をより効果的に吸収。快適な乗り心地と、静かな車内がツーリングの喜びを高めます。

## ECO Performance

## エコ・パフォーマンス



### ■走りと環境の新しい調和。

新開発の「リアアトロニック」は、燃焼効率の良いエンジン回転域を活用することで、気持ちのいい加速と優れた燃費性能を両立。環境への要望が高まりを見せる今の時代でも、心おきなくグランドツーリングを愉しんでいただけます。



### ■エコ走行を装備でサポート。

「ECOゲージ」や、効率的なシフトチェンジのタイミングを知らせる「シフトアップインジケーター」などの装備が、省燃費走行をサポートします。

### ■優れた燃費性能。

10・15モード燃費  
(国土交通省審査値) **14.0km/ℓ**  
[2.5i、2.5i L Package (1520kg未満)]

※記載の燃費はインテリジェントモード時の数値。実際の走行時には運転条件、習慣等により燃料消費率が異なってきます。

■全車平成17年  
排出ガス基準  
75%低減  
レベルを達成。



[レガシィ全車]

## スバル フォレスターとエクシーガがともに 「自動車アセスメント優秀車08/09」を受賞

このたび、国土交通省と独立行政法人 自動車事故対策機構 (NASVA\*)が実施した、自動車の安全性能を比較評価する2008年度自動車アセスメント (JNCAP\*\*)において、スバル フォレスターとエクシーガ2車種が、ともに「安全性の優れた自動車」であると高く評価され、「自動車アセスメント優秀車08/09」を受賞しました。

スバルにとって「優秀車」の受賞は、昨年のインプレッサのグランプリの受賞に続いての表彰となります。

JNCAPは、「自動車メーカーに対し、より一層安全な自動車の開発を促すとともに、自動車の安全性についてユーザーの関心を一層高め、安全な自動車の普及を促進する」ため、年度ごとに試験対象車種を選定し、衝突安全性能試験 (運転席・助手席) や歩行者頭部保護性能試験、ブレーキ性能試験において比較評価を実施しています。この内、衝突安全性能試験で運転席・助手席ともに星6つ、歩行者頭部保護性能試験でレベル5の最高評価を得たクルマに対しては、「優秀車」の称が与えられます。

当社は今後も、自動車にかかわる人すべてに安全な商品を提供できるよう、努力してまいります。

\*National Agency Automotive Safety & Victims' Aid の略

\*\*Japan New Car Assessment Program の略

## 「スバル プラグイン ステラ プロトタイプ」を開発 ～環境省に15台提供、5府県市・郵便事業株式会社で実証実験～

当社は、今年夏から市場導入を予定している電気自動車「スバル プラグイン ステラ」のプロトタイプを開発、環境省に15台を提供いたしました。この15台は、5府県市ほかで実証実験に供されています。

今回のプロトタイプは、従来発表していたコンセプトモデルとの比較で、モーターの出力を40kWから47kWにアップし高出力化による走行性能を向上、さらに出力制御をよりきめ細やかに行い、かつ軽量化により一層の高効率化を図っています。また、バッテリー・パックの最適化・小型化、運転席メーター類の改良、内装仕様の変更なども施しました。今後、量産化されるモデルは、今回のプロトタイプと基本的に同一の仕様となります。

今年2009年7月から量産車の市場導入を開始する予定で、2009年度は170台程度の供給 (主に法人・官公庁向け) を計画しています。

当社は「快適、信頼の新しい走り」と地球環境の融合」を追求したクルマづくりを目指しています。その中で、環境保全に対応する取り組みとして、既存のパワートレインの改良はもちろんのこと、電気自動車も重要な技術のひとつとして位置づけ、今後も一層の研究開発に注力していきます。



PHOTO:フォレスターのオフセット衝突試験の様子



PHOTO:プラグイン ステラ プロトタイプ

# 配当に関する事項

当社は、株主の皆様の利益を重要な経営課題と位置付けており、業績や配当性向などを総合的に考慮しながら、長期的に安定した配当の維持を基本方針としております。

しかしながら、第78期期末配当金につきましては、経営環境の急変に伴う業績の悪化、および引き続き厳しい経営環境が予想されること等を総合的に勘案し、誠に遺憾ながら無配とさせていただくことに決定いたしました。

なお、中間配当金につきましては上記方針に基づき、1株につき4円50銭をお支払いしておりますので、当期の年間配当金は4円50銭となります。

## 株式事項

平成21年3月31日現在

### ●株式の総数

発行可能株式総数 1,500,000,000株

発行済株式の総数 782,865,873株

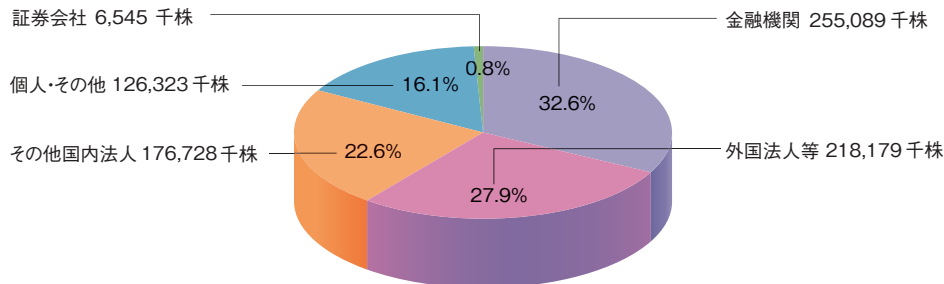
[注]当期中の増加 0株

●株主数 51,524名

### ●大株主

株主名	株式数(千株)	比率(%)
トヨタ自動車株式会社	129,000	16.48
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	35,947	4.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口4G)	35,903	4.59
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	33,272	4.25
ザバンク オブ ニューヨーク メロン アズ デポジタリー バンク フォー デポジタリー レシード ホルダーズ	16,153	2.06
日本生命保険相互会社	15,986	2.04
スズキ株式会社	13,690	1.75
株式会社みずほコーポレート銀行	12,362	1.58
株式会社みずほ銀行	12,016	1.54
株式会社損害保険ジャパン	11,716	1.50

### ●株式の分布状況 合計782,865千株



[注1] 「個人・その他」には、当社所有の自己株式3,282千株が含まれております。  
[注2] 「その他国内法人」には、株式会社証券保管振替機構名義の株式12千株が含まれております。

代表取締役社長	森 郁夫	執行役員	木村正一
代表取締役副社長	小松 熙	執行役員	池田智彦
代表取締役兼専務執行役員	高木俊輔	執行役員	日月丈志
取締役兼専務執行役員	及川博之	執行役員	永野 尚
取締役兼専務執行役員	松尾則久	執行役員	高橋 充
取締役兼専務執行役員	奥原一成	執行役員	野村元清
取締役兼専務執行役員	長門正貢	執行役員	宮脇基寿
取締役兼専務執行役員	近藤 潤	執行役員	笠井雅博
		執行役員	荒井直人
常務執行役員	石原 卓	執行役員	上野康男
常務執行役員	星 恒憲	執行役員	小林英俊
常務執行役員	蓮沼愛雄	執行役員	平川良夫
常務執行役員	武藤直人		
常務執行役員	吉永泰之	常勤監査役	街風武雄
常務執行役員	馬淵 晃	常勤監査役	石丸雍二
常務執行役員	鴨川珠樹	☆常勤監査役	今井伸茂
		☆監査役	宮川義一

[注] ☆印は社外監査役であります。

# 株式手続きのご案内

事業年度	毎年4月1日～翌年3月31日
配当基準日	期末配当：3月31日、中間配当：9月30日
定時株主総会	6月中
単元株式数	1,000株
株主名簿管理人及び 特別口座管理機関	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
公告方法	日本経済新聞に掲載して行います。

株券電子化に伴いまして、株式に関する各種お手続き（届出住所等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式に関する買取請求書及び買増請求書等）に関するお問い合わせ、書類のご請求の窓口につきましては、以下のとおり変更されております。

	証券会社に口座をお持ちの場合	証券会社に口座をお持ちでない場合 (特別口座)
お取扱店(ご請求窓口)	お取引の証券会社になります。	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスター証券株式会社 本店および全国各支店
電話お問い合わせ先		0120-288-324(フリーダイヤル)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4
ご注意	未払配当金の支払、支払明細発行については、右の「証券会社に口座をお持ちでない場合」のお取扱店・電話お問い合わせ先・郵送物送付先をご利用ください。	単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。電子化前に名義書換を失念してお手元に他人名義の株券がある場合は至急ご連絡下さい。

※各種手続きの詳細のご案内はみずほ信託銀行株式会社のホームページをご覧ください。  
<http://www.mizuho-tb.co.jp/daikou/tetsuduki/index.html>

## [会社の概要]

社名 富士重工業株式会社  
英文社名 FUJI HEAVY INDUSTRIES LTD.  
創立 昭和28年7月15日  
資本金 1,537億9,527万円  
従業員数 12,843名  
主要製品 普通・小型自動車、軽自動車、航空機、汎用エンジン、環境車両  
本社 〒160-8316  
東京都新宿区西新宿一丁目7番2号  
代表電話 03-3347-2111



現在制作中につき、表紙のデザインは  
変更となる場合がございます。

## 「2009 CSRレポート」を発行します

当社および当社グループの2008年度のCSR(企業の社会的責任)活動についての  
取り組みをまとめた「2009 CSRレポート」を7月末に発行します。

### 【本書の概要】

- ・ 新型エクシーガの開発ストーリー、スバルのCS取り組み、産業機器カンパニーの  
社会貢献取り組みなど特集記事が満載。
- ・ 本書とは別に、詳細な活動について当社ホームページに掲載します。

本書をご希望の方は下記までご請求願います。  
(7月末に当社ホームページでも掲載を予定しております)

「2009 CSRレポート」についてのお問い合わせ先  
富士重工業株式会社 総務部 CSR・環境推進室  
電話 03-3347-2035  
FAX 03-3347-2381

## 富士重工業株式会社

〒160-8316 東京都新宿区西新宿一丁目7番2号  
電話 03-3347-2111

[ホームページ：株主・投資家の皆様へ] <http://www.fhi.co.jp/ir/index.html>

